2009年3月期 第3四半期
決算概要

2009年1月29日

NECエレクトロニクス株式会社

代表取締役社長　中島 俊雄

http://www.necel.com/ir/ja/

本日発表の業績修正内容

NEC

- 急速な事業環境の悪化、円高進行により、2009年3月期の業績予想を下方修正

	今年度予想（2009/1/29）	前回予想（2008/10/21）	修正幅
売上高	5,550億円	6,600億円	△1,050億円
半導体売上高	5,300億円	6,300億円	△1,000億円
営業損益	△550億円	10億円	△560億円
当期純損益	△650億円	△80億円	△570億円

注：本業績予想における第4四半期の前提為替レートは、1米ドル90円、1ユーロ125円としております。

エグゼクティブ・サマリ

Ⅰ. 2009年3月期 第3四半期 業績概要

- 事業環境の悪化や円高の影響を受け、半導体売上高・営業損益とも前回想定（10月21日）より大きく悪化

Ⅱ. 2009年3月期 業績見通し

- 第4四半期の業績は、第3四半期よりも更に悪化することを織り込んで、通期業績の見通しを下方修正
- 第4四半期は工場稼働率が悪化するため、稼働減少に対応した生産体制を整える （第4四半期の工場稼働率は50％の見通し）

Ⅲ. 来期以降の業績改善に向けた施策

- 今後2年間で800億円の固定費削減施策を実行
  （10年3月期に600億円削減）

Ⅰ. 2009年3月期 第3四半期 業績概要

Ⅱ. 2009年3月期 通期業績見通し

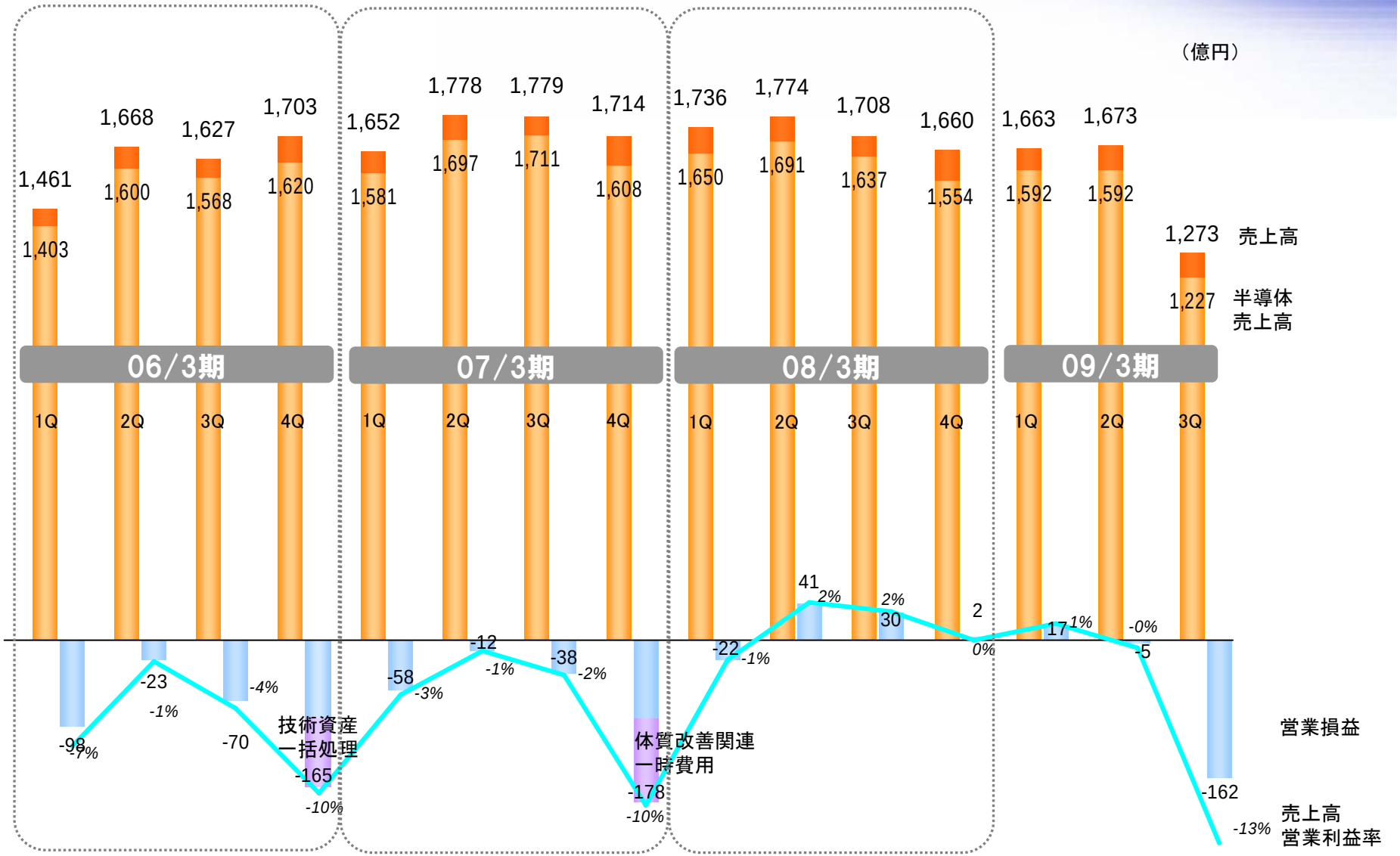
Ⅲ. 来期以降の業績改善に向けた施策

業績サマリ

（単位：億円）	09/3期				
	3Q, 12/31			9ヶ月累計	
	実績	前年同期比	前四半期比	実績	前年同期比
売　上　高	1,273	△434	△400	4,609	△608
半導体売上高	1,227	△411	△365	4,410	△568
営 業 損 益	△162	△192	△157	△150	△199
税 前 損 益	△201	△218	△198	△201	△236
当 期 純 損 益	△199	△190	△193	△218	△178
フリーキャッシュフロー	33	+44	+12	△12	△105
D/Eレシオ	0.59倍	－	－	－	－
株主資本比率	34.0%	－	－	－	－
為替レート	1US$ =101円 1Euro=137円	対US$ 13円高 対Euro 26円高	対US$ 7円高 対Euro 29円高	1US$ =104円 1Euro=154円	対US$ 14円高 対Euro 8円高

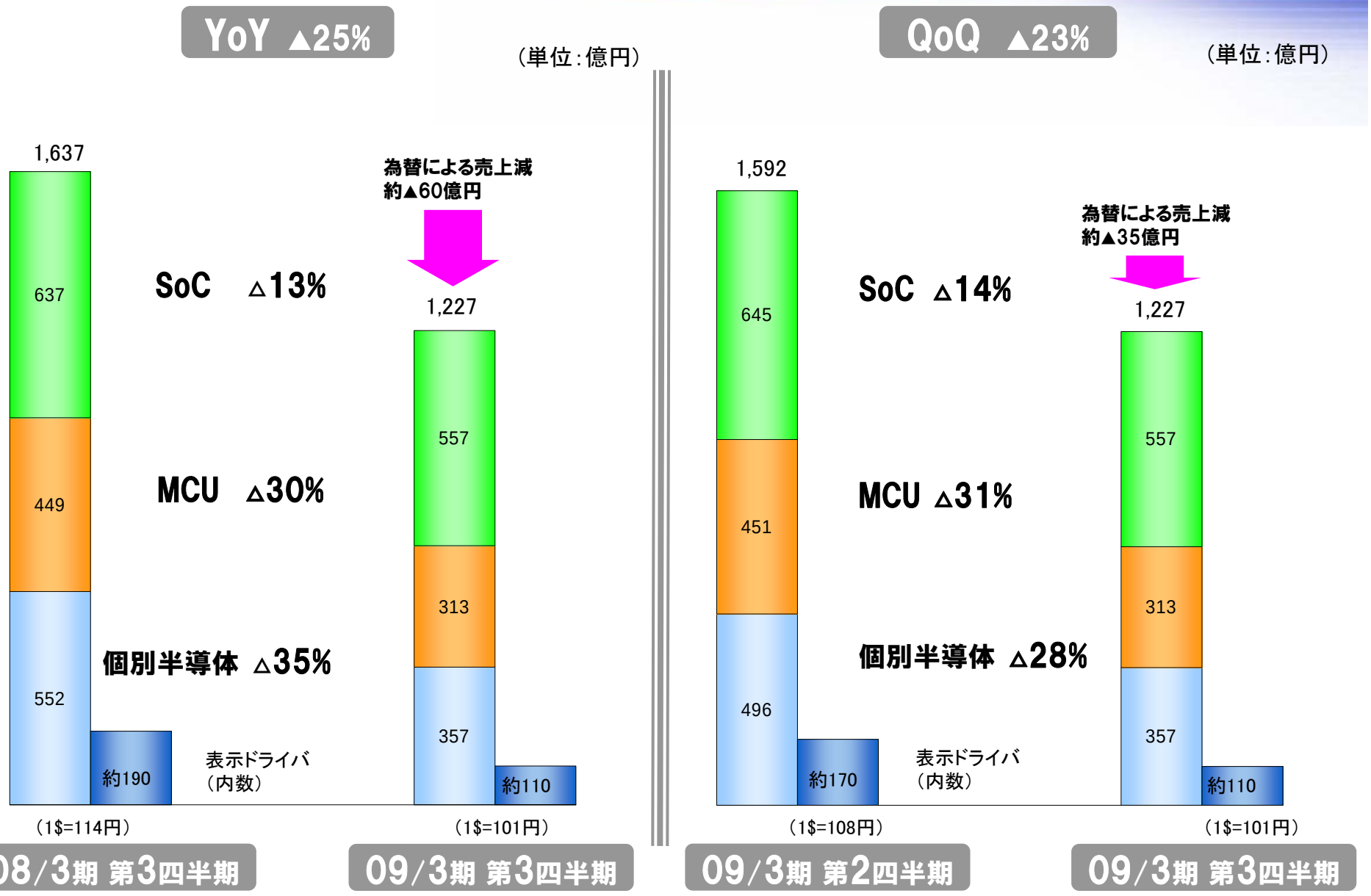
注: 当社は米国会計基準を採用しておりますが、「営業利益」は売上高から売上原価、研究開発費、販売費および一般管理費を差し引いたものです。

四半期別業績推移



注: 当社は米国会計基準を採用しておりますが、「営業損益」は売上高から売上原価、研究開発費、販売費および一般管理費を差し引いたものです。

第3四半期(10-12月期) 半導体売上高(製品群別)

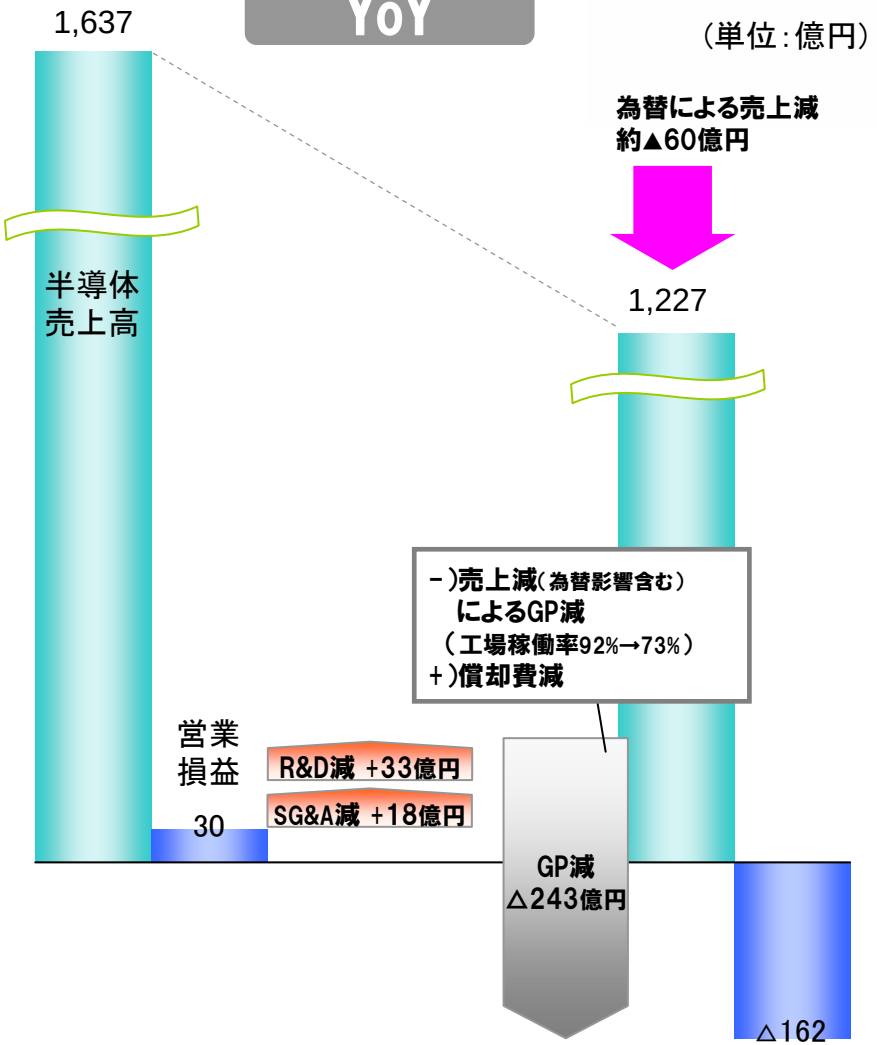


第3四半期(10-12月期)営業損益の主な増減要因

NEC

YoY

(単位:億円)



(1$=114円)

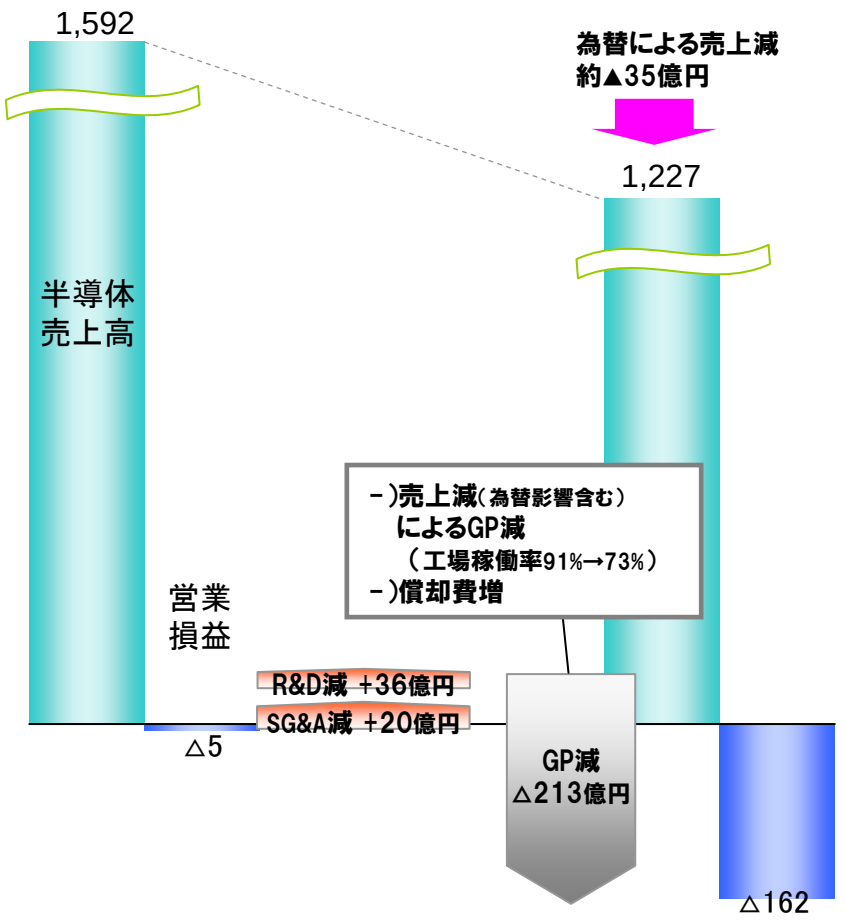
08/3期 第3四半期

(1$=101円)

09/3期 第3四半期

QoQ

(単位:億円)



(1$=108円)

09/3期 第2四半期

(1$=101円)

09/3期 第3四半期

注 GP:粗利益 、 R&D:研究開発費 、 SG&A:販売費および一般管理費

バランスシート

（単位：億円）	07/12	08/9	08/12
現金および現金同等物	1,889	1,580	1,565
受取手形および売掛金	926	953	681
たな卸資産	811	820	821
有形固定資産	2,738	2,570	2,447
その他の資産	313	297	280
総資産	6,676	6,220	5,794
支払手形および買掛金	1,183	1,119	1,109
社債および借入金	1,320	1,171	1,170
その他の負債	1,535	1,629	1,494
負債	4,037	3,920	3,773
少数株主持分	51	52	52
株主資本	2,588	2,248	1,969
負債、少数株主持分および資本合計	6,676	6,220	5,794
D/Eレシオ（グロス）	0.51倍	0.52倍	0.59倍
株主資本比率	39%	36%	34%

キャッシュ・フロー

（単位：億円）	08/3期		09/3期		
	3Q	9ケ月累計	2Q	3Q	9ケ月累計
営業活動による キャッシュ・フロー	136	428	146	105	294
投資活動による キャッシュ・フロー	△147	△335	△125	△72	△306
フリー・ キャッシュ・フロー	△10	93	21	33	△12

Ⅰ. 2009年3月期 第3四半期 業績概要

Ⅱ. 2009年3月期 通期業績見通し

Ⅲ. 来期以降の業績改善に向けた施策

09年3月期 業績予想

NEC

事業環境の更なる悪化を想定し、通期業績見通しを修正

(単位:億円)	08/3期	09/3期				
	年間	9ケ月累計	年間			
	実績	実績	前回予想 (10月21日)	今回予想	前回との差異	前期との差異
売 上 高	6,877	4,609	6,600	5,550	△ 1,050	△ 1,327
半導体売上高	6,533	4,410	6,300	5,300	△ 1,000	△ 1,233
営業損益	51	△150	10	△550	△560	△601
税前損益	△33	△201	△40	△620	△580	△587
当期純損益	△160	△218	△80	△650	△570	△490

為替レート

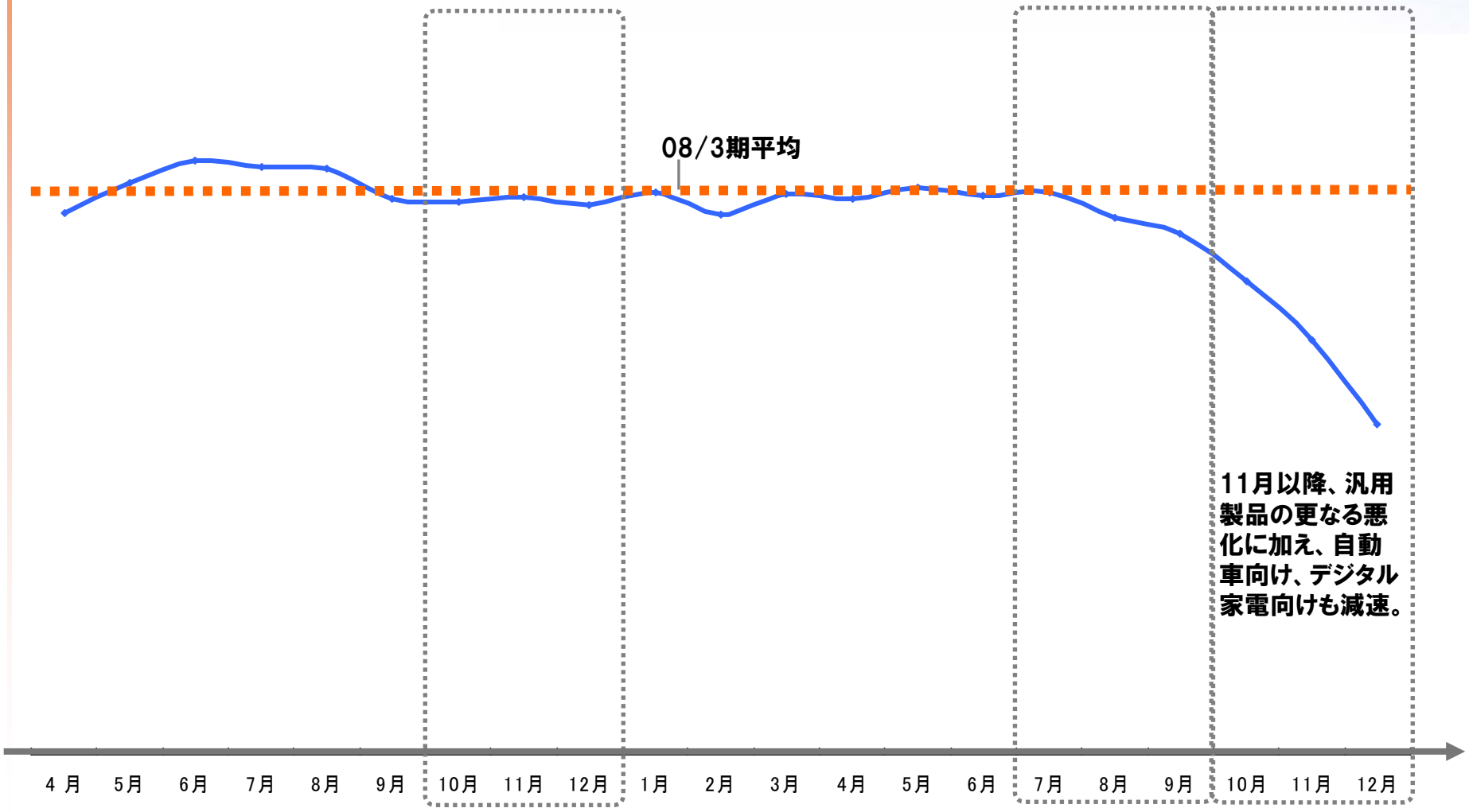
1US$=	116円	104円	105円	4Q 90円		
1Euro=	161円	154円	145円	4Q 125円		

注1:当社は米国会計基準を採用しておりますが、「営業損益」は売上高から売上原価、研究開発費、販売費および一般管理費を差し引いたものです
注2:予想値は2009年1月29日現在

半導体受注高の推移

NEC

受注（3ヶ月移動平均）

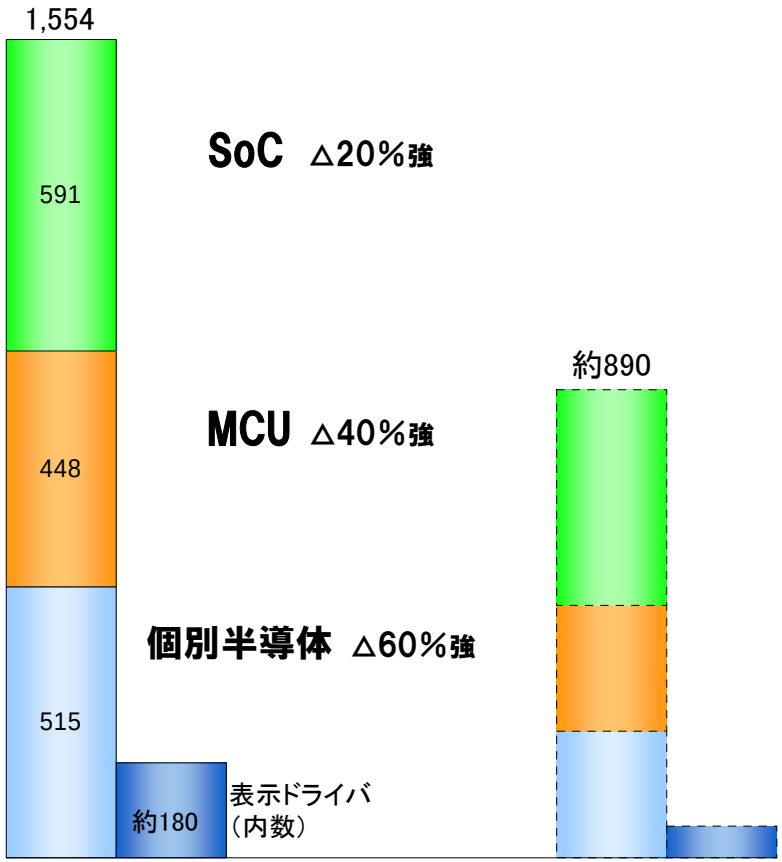


（為替は便宜上受注月の当社売上計上レートを適用）

第4四半期 半導体売上高見通し

（単位：億円）

YoY 約▲43%

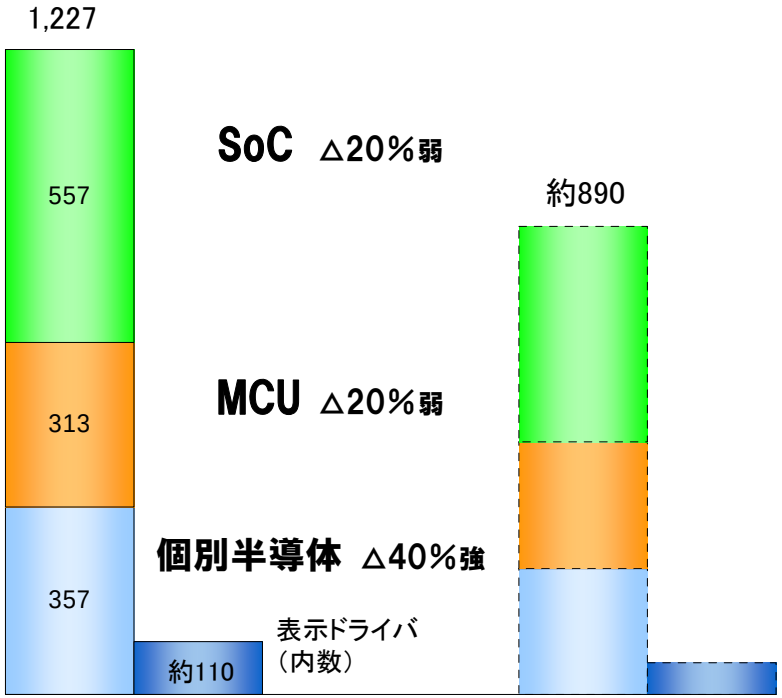


08/3期 第4四半期実績

09/3期 第4四半期見込

（単位：億円）

QoQ 約▲27%



09/3期 第3四半期実績

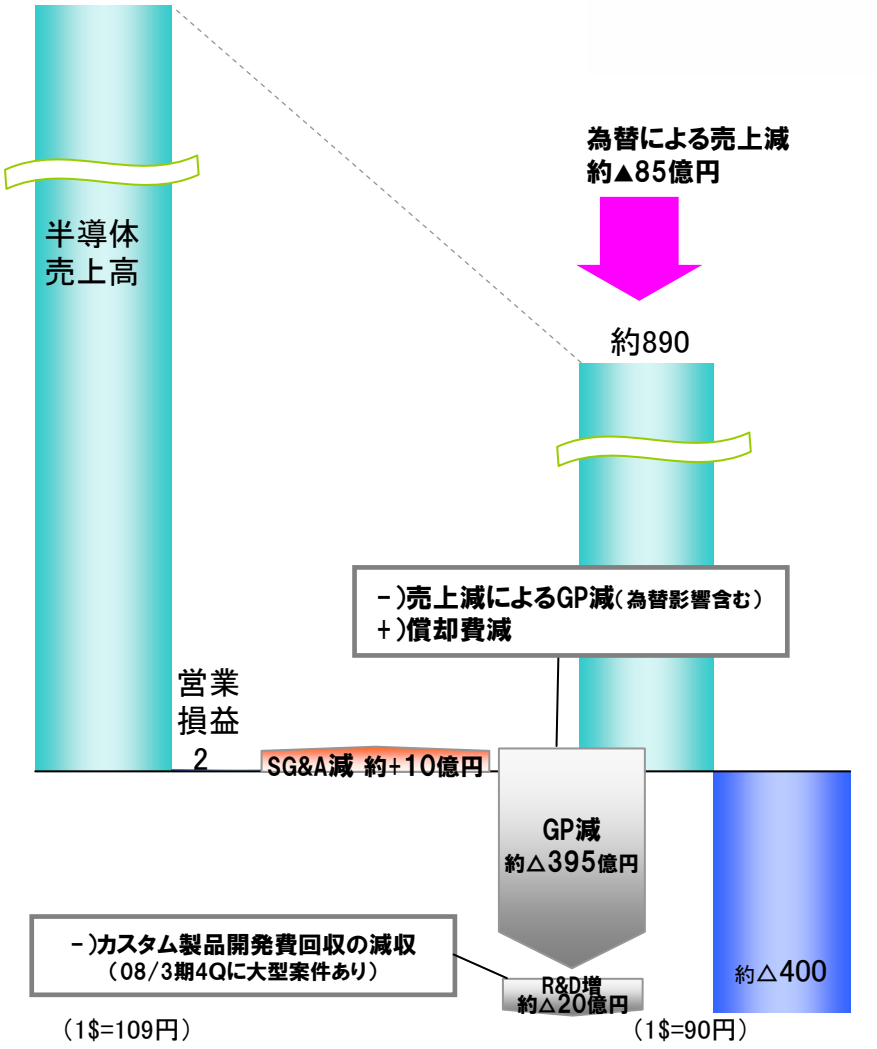
09/3期 第4四半期見込

第4四半期　営業損益の主な増減要因

NEC

YoY

（単位：億円）

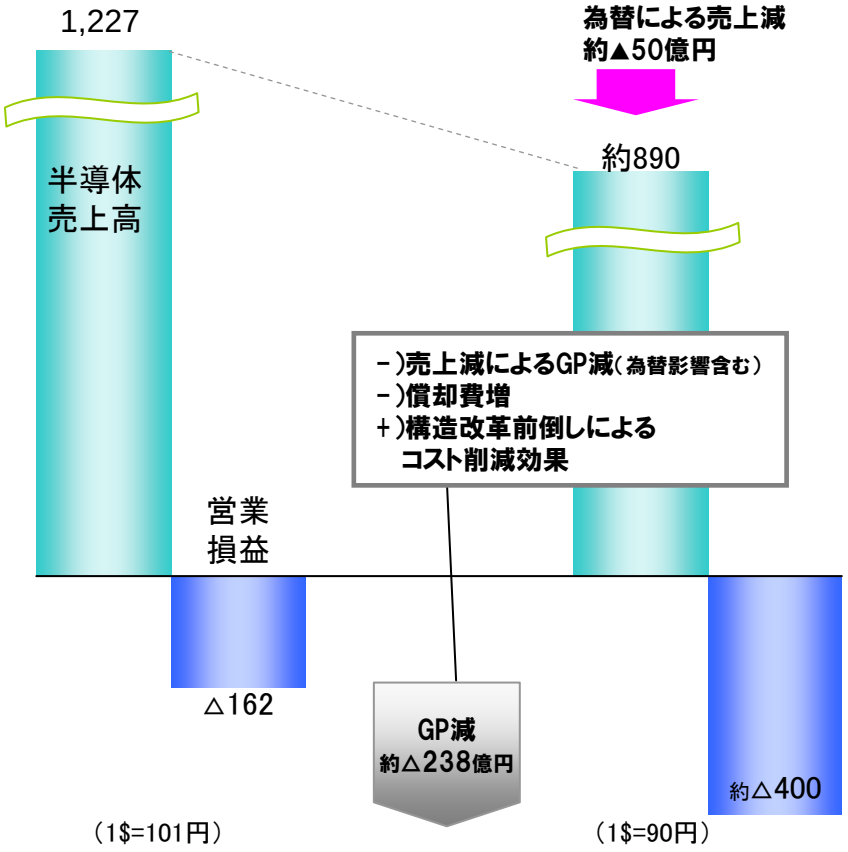


08/3期 第4四半期実績

09/3期 第4四半期見込

QoQ

（単位：億円）



09/3期 第3四半期実績

09/3期 第4四半期見込

注　GP：粗利益　、　R&D:研究開発費　、　SG&A:販売費および一般管理費

Ⅰ. 2009年3月期 第3四半期 業績概要

Ⅱ. 2009年3月期 通期業績見通し

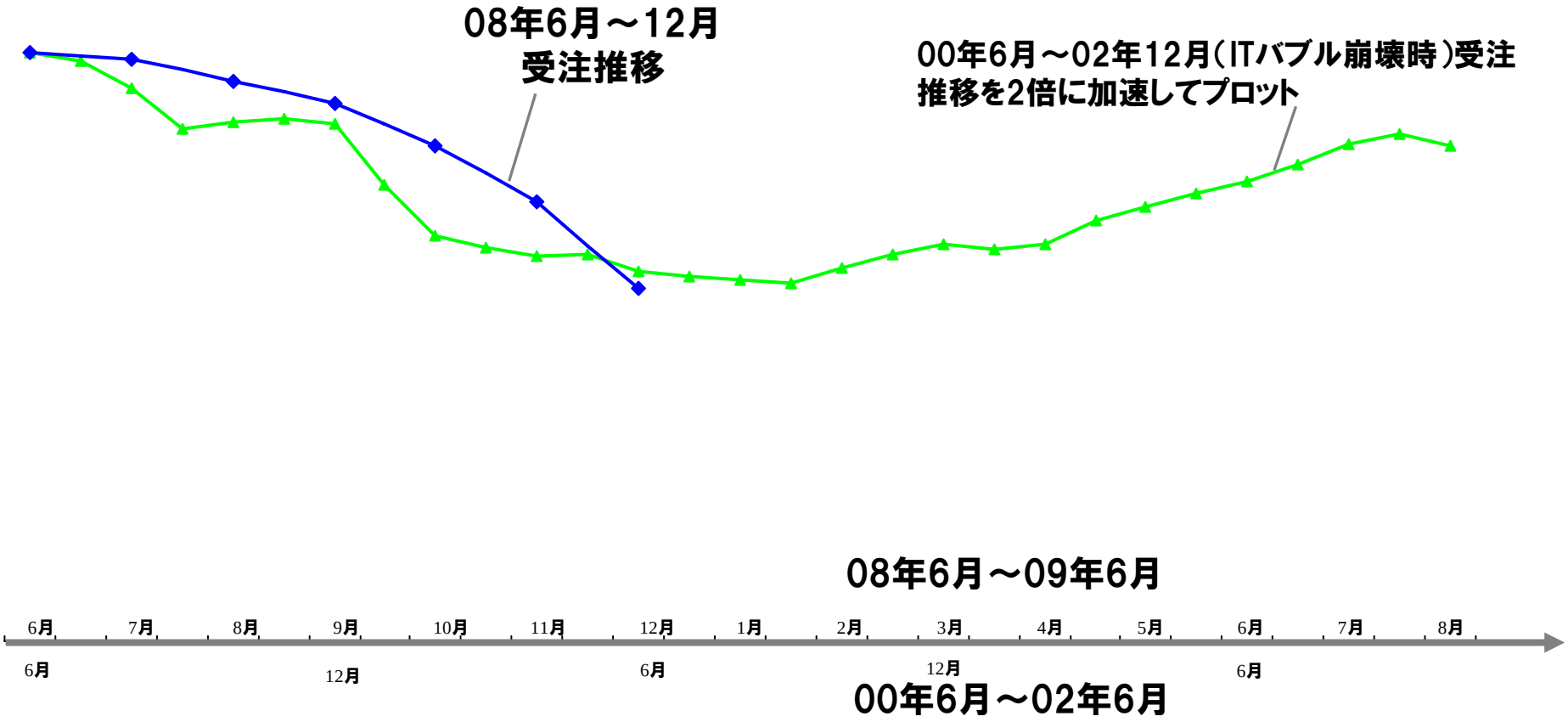
Ⅲ. 来期以降の業績改善に向けた施策

半導体受注のITバブル崩壊時との比較

NEC

3ヶ月平均受注高をINDEX化※

※6月受注高を基準に受注高推移をINDEX化



（為替は便宜上受注月の当社売上計上レートを適用）

新たな経営施策

■ 2年間で800億円の固定費を削減

- 10/3期　約600億円の固定費削減を実行
- 11/3期　約200億円※の固定費削減を実行

※更なる削減施策を継続検討中

11/3期損益分岐点を、約5000億円まで引き下げる

■ 構造改革を加速

- 生産体制再編を更に加速

■ 成長市場へ経営資源を集中

- 成長市場である“省エネ”、“エコロジー”に対応した“*eco*プロダクト”に経営資源を集中

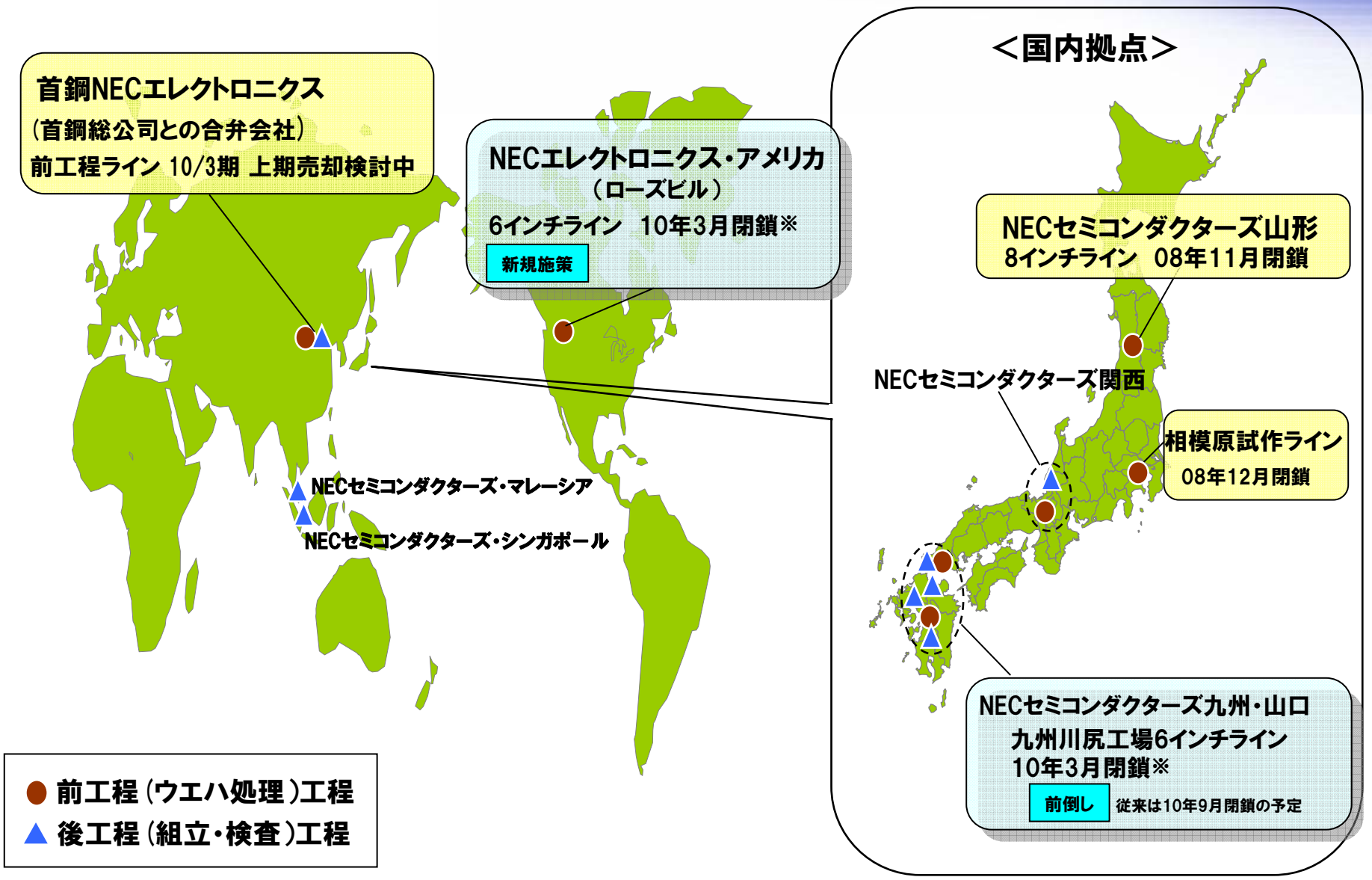
10/3期　600億円固定費削減施策

NEC

- **生産関連固定費の削減**　約300億円
  - 生産ラインの集約による効果（約80億円）
    山形8インチライン、相模原300ミリ試作ライン閉鎖など
  - 生産調整による人員最適化（約100億円）
    勤務シフト変更、約1200人の派遣契約期限満了など
  - 設備投資抑制による効果（約120億円）
    償却費・リース料減
    10/3期設備投資を400億円以下に抑制
- **研究開発費の削減**　約200億円
  - ROI精査による開発品種の削減
  - 開発効率の改善、海外開発リソースの活用（インド、中国など）
- **その他全社費用の削減**　約100億円
  - 人件費の削減（取締役報酬・管理職の報酬カットなど）
  - あらゆる経費の徹底的抑制

これらの施策の一部の費用削減効果を09/3期に前倒しすべく努力中

生産体制再編の加速



※コスト削減効果は11/3期

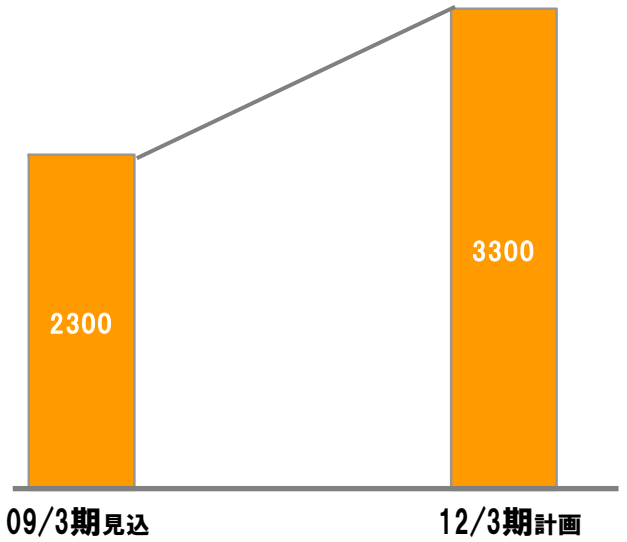
“ecoプロダクト”で売上成長を牽引

CO_2排出削減を実現する“ecoプロダクト”に経営資源を集中



自動車、デジタルコンシューマ、汎用マイコンなどの注力分野を活かす“ecoプロダクト”

（単位：億円）



主な製品群



低消費電力デバイス

エコマイコン、DRAM混載ASICなど

省エネ製品に貢献するデバイス

エアコン用マイコン、自動車燃費改善マイコン、システム電源、モータドライバなど

本日のまとめ

生き残りをかけた構造改革を引き続き断行

- 2011年3月期に損益分岐点を5000億円まで引き下げる
  （固定費を2年間で800億円削減）

- “ecoプロダクト”で新市場を開拓し、売上成長の原動力とする

NEC

NEC Electronics Corporation

（将来予測に関する注意）

本資料に記載されている当社および連結子会社（以下NECエレクトロニクスと総称します。）の計画、戦略および業績見通しは、将来の予測であって、リスクや不確定な要因を含んでおります。実際の業績等は、様々な要因により、これら見通し等とは大きく異なる結果となりうることをあらかじめご承知願います。実際の業績等に影響を与えうる重要な要因としては、（１）NECエレクトロニクスの事業領域を取り巻く日本、北米、アジア、欧州等の経済情勢、（２）市場におけるNECエレクトロニクスの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、（３）激しい競争にさらされた市場においてNECエレクトロニクスが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを供給し続けていくことができる能力、（４）為替レート（特に米ドルと円との為替レート）の変動等がありますが、これら以外にも様々な要因がありえます。また、世界経済の悪化、世界の金融情勢の悪化、国内外の株式市場の低迷等により、実際の業績等が当初の見通しと異なる結果となる可能性もあります。

参考：分野別 半導体売上高

（単位:億円）

